



千代田区民講座 第一回「音のサロン」開催される

一般社団法人日本オーディオ協会
渡邊哲純

日本オーディオ協会では、「音のサロン」委員会（11社参加：委員長 アキュフェーズ 高松重治氏）において、「良質の再生音楽を良質の再生環境で楽しむ」ライフスタイルの再構築をめざし、スピーカーを使用した音楽に触れてもらう機会を作る活動をかねてより展開してきています。

この一連の活動を「音のサロン」と名付け、「オーディオ・ホームシアター展」やPCオーディオ入門講座等を推進してきました。委員会では更に普及活動の場を広げたいとの思いから、地方自治体とのコラボレーションによる「音のサロン」の実施を検討、このたび千代田区と日本レコード協会のご協力を頂く話がまとまりました。

そこで千代田区民講座の位置づけで、千代田区立日比谷図書文化館と一般社団法人日本レコード協会と日本オーディオ協会の共催による「音のサロン」を開催する運びになり、さる9月27日にその記念すべき第一回「音のサロン」が千代田区立日比谷図書文化館スタジオプラスにて開催されました。

このイベントは千代田区民の方が優先ですが、定員数に余裕のある場合は区民以外の方にも参加いただける形とし、第一回目は「ビートルズを聴く」をテーマに、講師には元東芝音楽産業でビートルズの初代ディレクターとして活躍された高嶋弘之氏（現高嶋音楽事務所代表）をお招することにしましたが、千代田区報に告知されると申し込みが殺到し、瞬間に定員枠を超えてしまい、あわてて募集締め切りの告知を出すほどでした。

開催当日は講師の高嶋さんがお持ちの貴重なソフトや原版などが展示され、来場された皆さんは開演時間前から講師をとりまき説明を受けておりましたが、高嶋さんは嫌な顔もされず皆さんの質問にも答えておられました。

いよいよ開演の6時半を迎え客席は満席で関係者は座る場所もない中、秘蔵のアナログレコードの試聴からスタートし、日本でのビートルズPR活動の苦労話などを交えた90分は瞬間に過ぎてしまいましたが、その間講師は一度も座ることなく、マイクも使われずに聴衆を引き付けたトークには敬服するばかりでした。

次回以降は11月・2月・5月の「音のサロン」の開催が予定されています。



高嶋 弘之氏



レコード展示品（高嶋氏所蔵）